

昭和62年5月8日～5月30日
大学図書館2階展示ホール

下田歌子資料展

今回は、和歌短冊をはじめ、元旦試筆、家族宛の書簡などのほか、香雪叢書第一巻所収の「楓のもとを離れて」、「伊香保の記」などの随筆紀行。遺品・御下賜品を紹介する。

1 和歌短冊

(1) 幼年期

- 一 名所千鳥 和歌のうらの入江寒けく寄浪に こゑも近づく小夜千とり哉
(せき子 10才 文久三年)(806)
- 二 春旅 かさねても爰に宿らむ草枕 たひ寝のまくに花の香そする
(せき子 11才 元治元年)(2364)
- 三 無風花散 春風は吹ぬものから ひきゝぬとちりみたれたる山さくら哉
(せき子 12才 慶応元年)(2374)
- 四 春従東来 吹こゆる風もなこそこの関のとにかすみ立なり はるや来ぬらん
(せき子 13才 慶応二年)(2404)
- 五 つくは山葉山に月の影消て さきりをくらし武蔵の原
(せき子 12才作15才書 慶応四年)(985)

(2) 青年期

- 一 鶯啼声 立よらむ花のあるしはしらねとも こてふに似たり鶯のこゑ
(2293)
- 二 樹蔭納涼 風かよふ柳のかせのつり床に ゆらるゝゆめもすゝしかりけり
(2308)

三 春夏秋冬 春ははな秋は紅葉にあくかれて ゆきも蛭も(蛭もゆきも)
集めさりけり [朱添削評点](2309)

四 仏都巴里斯 みかきそふ(たてなへし)玉の臺や にしの海の都のうちの
ミヤこなるらん [朱添削評点](2316)

五 宇宙 天地の至れるきハミ行物は つき日のかけと道と也けり
(2318)

(3) 壮老年期

- 一 春草 黒土をもたくる草に新らしき ちからも見えて春はうれしも
(796)
- 二 あゆち濁なミたちこえしあしたづの 声おほそらにひゝき残りぬ
(2027)
- 三 水郷冬月 ちとりなく芦やのうらの夕汐に 寒さもみつる月のかけ哉
(2249)
- 四 瀧辺雲 たきつせの水上までは見せぬこそ 高ねの雲の心なりけれ
(2251)
- 五 難波津と名つけたる筆を よしとのミいはるゝ見れば難波つの
あしかるふしやましらさるらん (2258)

2 元旦試筆 明治四十二年 従三位(源)下田歌子 (2439)
鳥ノ子紙 1枚 35×49.4cm
「たつとしの初日にさはる雲もなし 我か世もかくやのとけかるら
む」

3 書簡

- (1) 下田歌子(平尾せき)書簡 (294)
平尾家族宛 1通 [明治10年頃] 6月1日
「宮中より急に御所を下ることとなり、その打合せ」
- (2) 下田歌子書簡 (25)
父(平尾録蔵)宛 1通(1軸) 明治21年6月1日
「病氣保養方々関西方面女学校視察旅行の折、京都にて」

4 紀行・随筆

- (1) [楓のもとを離れて] (256)
下田(平尾)歌子著
自筆草稿1冊(美濃半折10丁) [明治9年] 標題なし
香雪叢書第一巻所収と異なる部分あり。楓掌侍は税所敦子のこと
- (2) 伊香保之記 (273)
下田(平尾)歌子著
自筆草稿1冊(美濃半折23丁) 初稿本 明治13年7月自序
署名 平尾歌子
- (3) 花松典侍の祝に (2985)
下田歌子著
卷子1軸 34cm 料紙 烏ノ子金粉散らし 大正12年3月
花松典侍(千種任子)が大正12年新年勅題「暁山雲」に入選した折、貞明皇后の仰せをうけて書いたもの。
よこ雲のたちわかれゆく暁に ふじの嶺きよくあらはれにけり

5 遺品・拝領品

- (1) 手帳 (595)
下田歌子先生所持
1冊 12.3cm 昭和2年より10年頃までの備忘。
講義の予定や心覚えなどをときおり書きとめたもの。所掲は願心・明德などの姉妹校に講義にゆかれるその覚え書。
- (2) 手鏡 (2938)
下田歌子先生座右の品 1面

- (3) 色絵喜の字文様菓子鉢 (2906)
笹川庵命窯 芳嶺作 松坂万古焼 昭和7年 下田歌子喜寿記念品
1個 径21cm 高さ7cm
- (4) 平戸焼茶碗 銘村雨 (2919)
1個 径13.5cm 高さ5.5cm 宮中拝領品
- (5) 桐花文彫茶碗 銘大仏殿 (2920)
1個 径13cm 高さ5cm 宮中拝領品
- (6) 紫交趾牡丹唐草文茶碗 (2921)
1個 径13.5cm 高さ4.2cm 宮家拝領品
- (7) 銀製十六菊花形一輪挿 (2927)
1個 高さ11.5cm 明治天皇御下賜品
- (8) 小菊文浮彫硯 (2911)
1個 15×14cm 共蓋付 明治天皇御下賜品

* 付記した番号は資料番号である。

下田歌子書簡 父(平尾録蔵)宛 明治二十一年六月一日

母様より御座候と御申に御座候と母様より御座候

其後は御格別と御座候

御障り様もあらせられず

や折角御加養専一に祈り入候私事ハ

に出立後ハからだ替り

候程よく相成れを

思えハ東京ハあまり

性にアハぬかと存候程に

御座候御母様御はじめ

みな被下候無事故御

安心被下候昨夜ハ

西京へ着候昨日ハ

と申宿へ泊り、津

かも川のほり、

東山望み好風

景に御座候女学校

もに申候ま今か

遊びに出候か今か

然し出る所上流社

会人の奔走し候

迎へると有様故にハ

い分楽にないのハ

閉口候然し有難き

事二御座候また後

便に急ぎ乱筆

御はんで被下候

六月一日

平尾御父様御もと

歌子拜